

令和2年度 学校力向上に関する総合実践事業（地域指定）
成果普及資料

学校力向上Q & A

(V e r . 1)

令和2年 11 月
根室市教育委員会

本リーフレットについて

- 本リーフレットは、根室市の指定校において、学校力向上に関する総合実践事業（地域指定）に取り組んだ成果を普及するために作成しました。
- 学校の教育活動を進める上で、課題となる点を「Q」、その課題解決を図った取組を「A」として、「Q & A」の形式で分かりやすく示すことができるように配慮しました。
- 吹き出しは、「校長等のリーダーシップ」として、組織的・計画的に課題解決を図る取組の充実に向けて、校長・教頭等が関わるポイントを示しました。

Q 2

各種調査を分析し、指導の改善を図る「検証改善サイクル」の確立に向けて、どのように進めるとよいですか。

A 2

【校長等のリーダーシップ】
校長が経営方針の重点や全教職員で取り組むことを明確に示すようにしました。

【根室市立花咲小学校の実践】

学校の取組の重点の一つとして、「各種調査を活用し、速やかな検証・分析・改善を図ること」があることから、「検証改善サイクルの確立」に向けて、全教職員で全国学力・学習状況調査等の各種調査を分析し、課題を共有し、改善方策を明確にするようにしました。

分析では、言語活動の充実に取り組んだことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域において、成果が見られるものの、記述式で解答する問題の正答率は、前年度に引き続き課題が見られていることが明らかになりました。

また、児童質問紙などの調査結果を組み合わせることで多面的に分析したり、「チャレンジテスト」を活用してサイクルの迅速化を図ったりしました。

このように組織的に分析し、課題を明確にするとともに、その課題の改善方策を全教職員で協議し、授業改善のポイントとしてまとめました。

全国学力・学習状況調査だけでなく、「チャレンジテスト」において結果や要因の分析、改善方策の明確化に継続的に取り組みました。このような取組を、年間を通じて何度も行い、「検証改善サイクル」を確立するようにはしました。

【全国学力・学習状況調査の分析による授業改善のポイント】

- ① 各教科等で「書く」「話す」「話し合う（聞く）」の言語活動を重視し、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。
- ② 自分の考えを表現する活動を位置付ける。
 - ・複数の条件を示して記述させる。
 - ・表やグラフを活用して説明させる。
 - ・文字数制限を課す。
 - ・自分の文を読み返す（低学年から繰り返し指導する）。
- ③ 教師が児童の発言の意図を安易に汲み取らず、言葉を付け足させるなどして、意図が伝わる話し方を指導する。
- ④ 継続的に基礎的な知識・技能の定着を図り、「書く」「話す」「話し合う（聞く）」の土台を培う。
- ⑤ 特別活動における学級活動での話し合いを見直し、充実を図る。

【取組のポイント】

- 全教職員で全国学力・学習状況調査等の各種調査を分析し、課題を共有し、改善方策を明確にするようにしました。
- 児童質問紙などの調査結果を組み合わせることで多面的に分析したり、「チャレンジテスト」を活用し、サイクルの迅速化を図ったりするようにはしました。

Q 3

学習規律や生活習慣を確立し、落ち着いた学習環境づくりをどのように進めるとよいですか。

A 3

【根室市立成央小学校の実践】

【学校（児童）「イッセいおう」学習規律について】

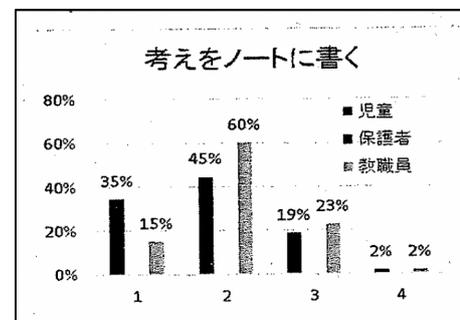
- ① 整理・整頓・チャイム席
- ② 板書とノート
- ③ 聞き方・話し方

【家庭（児童）「イッセいおう イン ホーム」生活について】

- ① ス・タ・ゲM1
(スマートフォン・タブレット・ゲームは1時間以内)
- ② 学年×10分の集中を、それができたら+10分
(家庭学習)
- ③ できるだけ歩いて登校(体も心もスイッチオン)

落ち着いた学習環境づくりを進めるため、学習規律や生活習慣を確立する取組を、学校だけでなく、保護者や地域住民にも学校だよりや各種会議（職員会議・学年集会・PTA総会・学校評議員会等）を通して説明しています。

また、取組を定期的に振り返り、検証改善を図るために、毎学期の児童アンケートや年2回の学校評価、地域住民を交えた学校評議員会等で取組状況を把握するなど、児童の実態を多面的に捉え、指導の重点を定めるようにしました。



【取組の評価】

【校長等のリーダーシップ】

取組状況を複数回把握し、指導の改善が図られるようにしました。

【取組のポイント】

- 児童の実態や保護者の意見を踏まえ、学校全体で取り組む内容を明確にするようにしました。
- 学校だけでなく、家庭・地域と課題を共有するとともに、取組を定期的に振り返り、改善するようにしました。

Q 4

学校全体が組織的に授業改善を進めるためにはどのように取り組むとよいですか（小学校）。

A 4

【授業改善推進チームの実践】

算数の授業こんな風にやってみました！

1学期末のチャレンジテストが行われました。今回は、チャレンジテストと授業との関連についてお伝えできればと思います。チャレンジテストは、北海道の子どもたちが苦手としている問題（全国学力・学習状況調査の結果を分析し、正答率の低い問題）を取り上げているそうです。

なので、チャレンジテストの内容の意図を踏まえ、普段の授業に活かしていくと、チャレンジテストの結果も向上していく可能性があると考えられます！

今回、①チャレンジテストの内容・②市内3校を見ていて弱いかも…という2点を盛り込み、成央小の3年生で授業を行ってみました。



計算はできるけど、このように図で表すことが苦手な児童が多いように思います…

1～4年生のうち、問題文を読んで絵や図で表す習慣をつけておく（初めは図の書き方も指導しながら）ことで、①高学年で難しい問題に出会っても自ら図で考え出せる可能性が出てきます。また、②図でノートに書くことができると、ICTを用いて映し出したりして全体で共有することもできます。

チャレンジテストでは、計算や図形の書き方の手順を説明する問題が多く出題されました。

じゃあいきなり「説明を書こう！」と始めても全員が書くのは難しいので…

①計算をする→ 312×3 の計算をする。
②メモを書く→① 2×3 ② 10×3 ③ 300×3 ④たす
※ナンバリングをして、赤い吹き出しに手順を書く。
③説明を書く→メモをもとに、接続詞を使いながら文章に書き起こしていく。
以上の3つのステップで進めました。

【授業改善チーム通信（一部抜粋）】

各種調査やチャレンジテストなどを活用し、課題を明確にするとともに、学校の課題解決に向けた改善方策や授業改善の好事例を「授業改善チーム通信」で示し、指導の手順やノート例などを具体的に伝えるようにしました。

また、日頃から、指導上の悩みなど、各教員のニーズを的確にとらえるようにし、目指す授業の在り方を共有するようになりました。各学校には初任段階教員も在籍していることから、板書やノート、発問等で具体的に示すようにしました。

【取組のポイント】

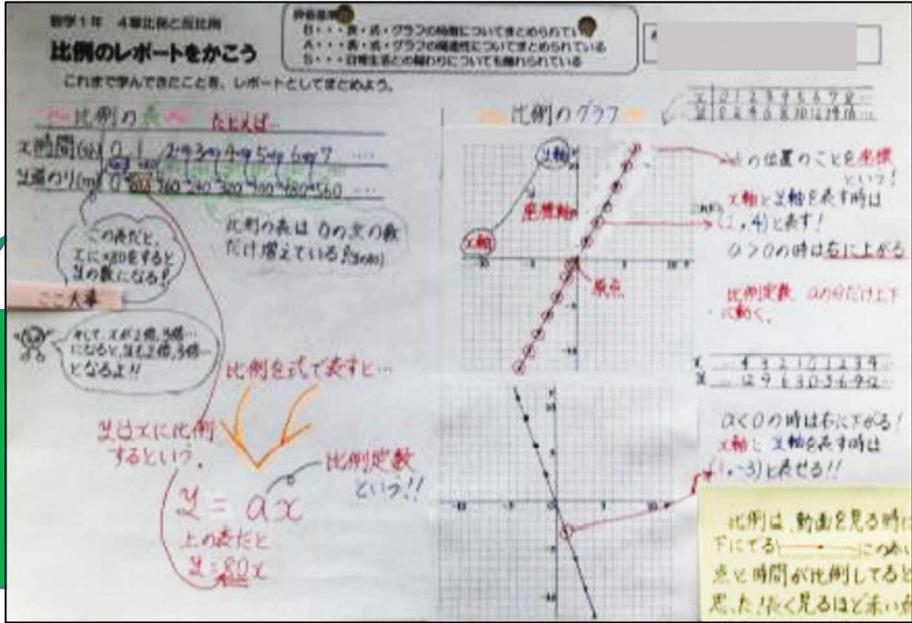
- 学校の課題解決に向けた改善方策や授業改善の好事例を具体的に示しながら、学校全体で共有するようになりました。
- 指導上の悩みなど、各教員のニーズを的確にとらえるようにし、目指す授業の在り方を共有するようになりました。

Q 5

学校全体が組織的に授業改善を進めるためにはどのように取り組むとよいですか（中学校）。

A 5

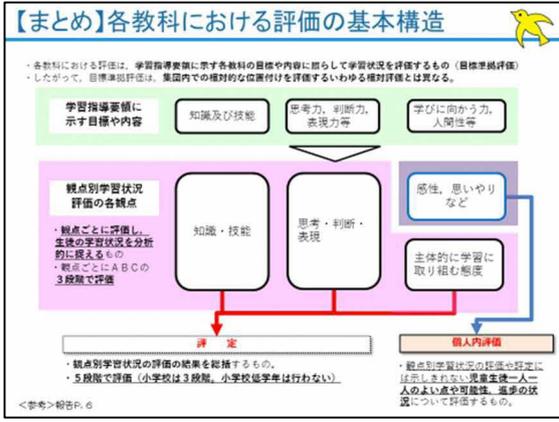
【根室市立柏陵中学校の実践】



【校長等のリーダーシップ】
 学校経営において、新学習指導要領の趣旨について、学校全体で共通理解を図ることを重視しました。

【生徒が作成したレポート（数学科）】

学習したことを活用して、レポートの作成など、課題を解決する学習活動を工夫するようにしました。
 また、学校全体で組織的に授業改善を進めるため、「各教科における評価の基本構造」を基に、学習評価の観点の趣旨について共通理解を図るようにしました。



【各教科における評価の基本構造】

【取組のポイント】

- 「思考力・判断力・表現力等」育成するため、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れるようにしました。
- 「知識・技能」だけでなく、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から資質・能力を育成することができるよう、学習評価の観点の趣旨について共通理解を図るようにしました。

Q 6

授業とのつながりを意識し、主体的な学習態度を育成するための家庭学習を進めるポイントは何ですか。

A 6

【校長等のリーダーシップ】

校長が生活習慣や日常の授業改善と関連させた家庭学習の方針を明示し、学校全体で共通理解を図るようにしました。

【根室市立北斗小学校の実践】

第3～6学年では、児童が帰りの会に「生活リズムチェックシート」に「家庭学習の内容」や「家庭学習に取り組む時刻」を記入し、家庭学習の計画を立てるようにしました。

子どもの姿や保護者をお願いすること、学び方などを示した「家庭学習の手引き」を作成・配付しました。

また、日常の授業において児童が学習のゴールや過程を見通す活動を工夫したり、児童が自分の成長を実感できる振り返る活動を工夫したりするなど、「見通す・振り返る」活動を重視するようにしたことにより、児童の家庭学習への意欲が高まってきました。

【家庭学習の手引（一部抜粋）】

【取組のポイント】

- 「生活リズムチェックシート」を活用し、生活習慣の確立と併せて取組を進めるようにしました。
- 「家庭学習の手引」を配付し、家庭学習のねらいや学習の仕方を示すとともに、日常の授業において児童が目的意識を高めて学習することができるよう、「見通す・振り返る」活動を重視するようにしました。

Q 7

組織的に日常の授業改善を図るためにどのようなことに取り組んでいますか。

A 7

【校長等のリーダーシップ】
校長・教頭等が日常の授業を参観し、指導助言するようになりました。

【根室市立花咲小学校の実践】

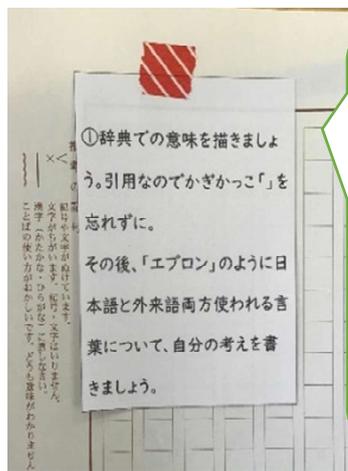
「学校力の向上」として、「ベテラン・ミドル層がリーダーとして活躍できる機会を工夫し、組織の活性化を目指す」と記されており、各種調査結果を踏まえ、課題や改善方策を共有するとともに、授業改善の視点を明確にするようにしました。

校内研修を見直し、研修成果が日常の授業改善につながるよう、育成する資質・能力を明確にすることを重視しました。また、全国学力・学習状況調査等で課題が見られた内容を教職員間で共有できるよう、「教務通信」「研修通信」等を発行しました。

また、授業改善の取組がより児童の実態を踏まえたものになるよう、「チャレンジテスト」の分析を各学年ブロックで行い、初任段階教員とミドルリーダーがともに児童の実態を分析することを通して、結果の要因を探るとともに、「実態を踏まえ、どのような授業を展開するのか」という授業改善の具体的な手立てについて協議しました。

また、日常から、各教員の悩みや課題を相談できる環境を整えるとともに、好事例を学校全体で共有し、組織的に授業改善を進めるようにしました。

取組の好事例を紹介



■■学級
児童一人一人の作文用紙に、児童が書いた文章のよさやアドバイスが貼られていました。児童一人一人の学習の様子を捉えて、きめ細かな指導をしています。

□□学級
児童は相手意識もって、話し合っていました。日常から行うことが大切ですね。

【教務通信（一部抜粋）】

【取組のポイント】

- 各種調査結果を踏まえ、課題や改善方策を共有するとともに、授業改善の視点を明確にするようにしました。
- 日常から、各教員の悩みや課題を相談できる環境を整えるとともに、好事例を学校全体で共有し、組織的に授業改善を進めるようにしました。

Q 8

教員の指導力を高めるための研修（例えばメンター研修等）を進める上で、留意することは何ですか。

A 8

【根室市立成央小学校の実践】



【研究の全体構造図】

学校教育目標を踏まえ、学校課題や指導上の課題を明確にし、学校全体で課題解決を図る意識を高めるため、研究の全体構造図を作成し、研修のねらいや取組を共有し、研修を充実させるようにしました。

また、初任段階教員に対しては、複数の先輩教員が講師となり、授業改善、学習規律の徹底、生徒指導等について指導するなど、ベテラン、ミドルリーダー、初任段階教員等の強みが発揮されるように体制を整備しました。さらに、放課後の短時間を活用し、気軽に相談できる「ゆる研」を行うようにしました。

【取組のポイント】

- 学校の課題や指導上の課題を明確にし、学校全体で課題解決を図る意識を高めるようにするため、研修のねらいや取組を共有するようにしました。
- 既存の取組を生かしながら、ベテラン、ミドルリーダー、初任段階教員等の強みが発揮されるように体制を整備しました。

【校長等のリーダーシップ】
校長が学校課題の解決を図りながら人材育成をするという考えを明確にもつようしました。

Q 9

全教職員による課題の明確化や業務の見える化をどのように進めるとよいですか。

A 9

【校長等のリーダーシップ】
校長が教育の質の向上を図るため、課題を明確にするとともに、既存の組織を見直すようにしました。

【根室市立花咲小学校の実践】

各種調査結果から、課題を明確にするとともに、教務部と研修部が連携するなど、組織の在り方を見直し、教育活動の質の向上に向け、課題解決を図る取組を進めるようにしました。

特に、課題解決に向けた取組状況について全教職員と共有できるよう、教務部と研修部が連携し、「教務通信」「研修通信」等を発行しました。

<p>休校明けの学習の進め方について教務からも出ていますが、2年生の国語をもとに、具体的にどんな風に時数をカットできるか考えてみました。学習指導要領解説と教科書の「ここが大事」で示されていることを確実に指導できるように単元計画を考えてください。</p>			
<p>【指導事項】 ○OCエ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p>			
<p>【ここが大事】 ○登場人物 ○会話</p>			
指導書の指導計画		休校明けの指導計画案	
時	学習活動	時	学習活動
1・2時	□単元とびらの題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。	1時	□「面白いところをしようかいし合う」という活動に取り組むことま知り、単元の見直しをまっ。
	□簡単な感想の交流やおもしろかったところの交流をして、くまの子になって考えてみることへの興味・関心をもたせる。		
	□新出漢字の確認と練習をする。		

【研修通信（一部抜粋）】

また、全教職員に周知したいことは「掲示板」を使用し情報を共有するなど、「校務支援システム」を効果的に活用し、全教職員の業務の見える化を進めるとともに、学校全体で共有することを通して、教育活動の質の向上を図るようにしました。

児童の様子については、「いいとこみつけ」を活用し、児童のよい点を全教職員が入力することにより、多面的に児童理解を図るようになりました。さらに、出席簿、通知表、指導要録なども「校務支援システム」を活用することにより、日常的な業務改善につなげるようにしました。

【取組のポイント】

- 学校の課題を明確にするとともに、教務部と研修部が連携するなど、組織の在り方を見直すようにしました。
- 「校務支援システム」を有効活用し、全教職員の業務の見える化し、共有できるようにしました。

Q 10

校種間連携や、家庭や地域との連携をどのように進めるとよいですか。

A 10

【根室市立成央小学校の実践】

校種間連携では月1回の管理職等による協議を基盤として、中学校教員による出前授業、児童生徒の交流が行われています。

これらのうち、月1回の管理職による協議では、小・中学校間の共通の課題を明確にし、課題解決に向けた取組を進めています。

また、児童生徒の交流では、中学生が活躍する姿を見て、小学生が中学生にあこがれをもつ姿が見られています。

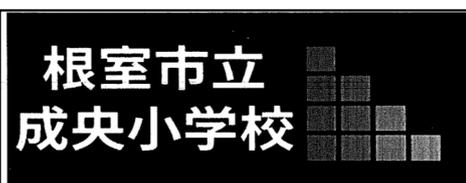
家庭との連携では、特に新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休業中は、学校で「学習支援サイト」を立ち上げ、学習内容や学び方を児童や保護者に分かりやすく示すとともに、定期的に更新し、新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童の学習保障に向けて、学校から積極的に発信するようにしました。

日頃から家庭や地域のニーズを的確に把握し、情報を積極的に発信するようにしました。



【児童生徒の交流】

【校長等のリーダーシップ】
校長が教職員に、連携する目的を明確に示すようにしました。



学習支援サイト

5年生 やることリスト④
5月1日(金) 配信分

教科	教科書ページ	課題
国語	漢字スキル P11	○漢字練習 「災」「技」「術」「資」「故」の5つに取り組みましょう。
	教科書 P40~P41	○漢字練習 漢字スキルで取り組んだ「災」「技」「術」「資」「故」の中から1字を選んで、家庭学習ノートに教科書をまねて書いてみよう。 ※漢字スキルを見ながら取り組んでください。
	教科書 P120	○四年生で学んだ漢字③ ①教科書に「よみがな」を書きましょう。 ②絵の文字を3つ使って、文を3つ作りノートの書きましょう。
算数	教科書 P128	○ほじゅうのもんだい アに取り組みましょう。 ※答えは教科書に書きましょう。
	教科書 P32	○どんな変わり方をするのかな？ 問題の①②に取り組みましょう。 ※答えは教科書に書きましょう ※問題の③は学校で取り組みます。

【学習支援サイト（一部抜粋）】

【取組のポイント】

- 活動することが目的にならないようにするため、小・中学校等で課題を共有するようにしました。
- 新型コロナウイルス感染症対策も含め、家庭や地域のニーズを的確に把握するとともに、ニーズを踏まえ、学校から積極的に発信するようにしました。